2023 年度 教職者参加ゼミナール

このゼミナールは、本校の最終学年の特別講義および演習を教職者と学生の共同研究の場とし、教会と神学教育の結びつきをいっそう緊密にする目的で行われている。

日 本 聖 書 神 学 校　教務部

〒 161-0033　東京都新宿区下落合 3-14-16
Tel: 03-3951-1102　　Fax: 03-3951-3044
Email: kyomu@jbts.ac.jp

■ 講義期間　4 月～ 10 月

※各講義によって開講期間が異なりますのでご注意ください。

※休講等により授業回数・日時が変更になる場合があります。

※新型コロナウイルス感染症の状況や講師の事情によりオンライン授業（Zoom）になる場合もありますこと、また受講者僅少の場合は開講中止の場合がありますことご了承ください。

■ 場　所　本校校舎（JR 目白駅徒歩 10 分）

■ 参加資格　キリスト教教職者で、教授会で適当と認められた者

■ 参 加 費　1 科目 15,000 円

■ 申込〆切　3 月 20 日（月）

■ 申 込 先　本校教務部宛に申込書を郵送・ファックス・Email で送付してください。

新約学ゼミ

教職参加ゼミ　担当講師　菅原裕治

授業日・時間　水曜 18:15 ～ 19:45
4 月 5 日、4 月 12 日、4 月 19 日、5 月 10 日、5 月 17 日、5 月 24 日（短縮授業 18:15-19:30）、5 月 31 日、6 月 7 日、6 月 14 日、6 月 21 日、6 月 28 日、7 月 5 日、7 月 12 日、7 月 19 日、9 月 13 日、9 月 20 日、9 月 27 日、10 月 11 日、10 月 18 日、10 月 25 日の 20 回

講義概要

「ヨハネによる福音書」を原典から精読することを通して、その神学的特徴について学ぶ。ことに、各受講者が担当箇所の釈義を行い発表し、全参加者と意見交換をすることを通して、その箇所の現代的意味についての理解を深める。

授業内容

1	ガイダンス
2	「ヨハネによる福音書」概論
3	注解書の読み方
4 ～ 18	受講者希望箇所による釈義（各学生の発表と考察）
19	ヨハネによる福音書執筆時代についての考察
20	まとめ

教科書

The Greek New Testament, United Bible Societies, 3rd ed. (Corrected) 以降
または、Nestle-Aland, *Novum Testamentum Graece*, 26th ed. 以降
各種翻訳聖書

参考書

G. S. スローヤン著、鈴木脩平訳、『ヨハネによる福音書（現代聖書注解）』、日本基督教団出版局、1992 年
ジークフリート・シュルツ著、松田伊作訳『NTD 新約聖書註解（4）ヨハネによる福音書』、ATD・NTD 聖書註解刊行会、1975 年
大貫 隆著、『福音書のイエス・キリスト〈4〉世の光イエス―ヨハネによる福音書』、講談社、1984 年（日本キリスト教団出版局版、同オンデマンド版あり）

備　考

初回のガイダンスで授業の進め方について説明する。

旧約学ゼミ

教職参加ゼミ　担当講師　金井美彦

授業日・時間 木曜 18:15 ～ 19:45
4 月 6 日、4 月 13 日、4 月 20 日、4 月 27 日、5 月 11 日、5 月 18 日、5 月 25 日（短縮授業 18:15-19:30）、6 月 1 日、6 月 8 日、6 月 15 日、6 月 22 日、6 月 29 日、7 月 6 日、7 月 13 日、9 月 14 日、9 月 21 日、9 月 28 日、10 月 5 日、10 月 12 日、10 月 19 日の 20 回

講義概要

律法の土台は出エジプトを実現させたヤハウェなる神だけを「神」とすることにあり、さらに、この神を「聖」とするために、そのほかの律法があるといってよい。その「聖」を守るために多彩な禁令が提示され、差別や排除が行われたとされる。イスラエル共同体の強さはその禁令を厳格に維持したことにあるが、もちろんそこに深刻な危うさもある。

これを「問題」として、今年度はエゼキエル書と祭司文書、特にレビ記を取り上げ、罪と穢れを罰し、排除することの意味を共に掘り下げてみたい。

授業内容

エゼキエル書の歴史的背景、エゼキエル自身の宗教的背景を探りながら、彼の預言における罪や穢れに対する強烈な批判や非難の意図とその影響を考える。取り上げる個所はこちらで提示する。レビ記にはついては特に「神聖法集」（レビ記 17 章 -26 章）を細かく読んでいく。

発題者は講解説教を毎回一本書く意気込みで参加してほしい。

教科書

邦訳『聖書』、BHS

参考書

授業中に指示する

備　考

組織神学ゼミ

教職参加ゼミ　担当講師　本多峰子

授業日・時間 火曜 18:15 ～ 19:45
4 月 11 日、4 月 18 日、4 月 25 日、5 月 2 日、5 月 16 日、5 月 23 日（短縮授業（18:15-19:30）、5 月 30 日、6 月 6 日、6 月 13 日、6 月 20 日、6 月 27 日、7 月 4 日、7 月 11 日、7 月 18 日、9 月 19 日、9 月 26 日、10 月 3 日、10 月 10 日、10 月 17 日、10 月 24 日の 20 回

講義概要

キリスト教神学における重要な概念や思想的項目を組織神学的に検討し理解することを目的とする。東京神学大学神学会編の『新キリスト教組織神学事典』の中から、主要な項目を選び、批判的に読み直し、日本基督教団の教師試験の組織神学の解答作成をも念頭に、受講者のそれぞれが各項目について論述できるようにすることを目指す。毎回学生によるたたき台の発表と意見交換、全員による検討によって授業を進める。その際、常に聖書に論拠を確認し、牧会の現場に出て説教に生かせるように心がける。扱う項目は受講生の希望によって柔軟に対応したい。

授業の後半部では、受講生それぞれの関心事に従って、問題提起と発表をしていただき、出席者全員によるフィードバックと討論を行なう。

授業内容

1. オリエンテーション。組織神学とは何か。（教義学、宣教学、倫理学）
2. 正典とは何か。
3. イエス・キリスト
4. キリストの三職と万人祭司
5. 福音主義
6. 律法と福音
7. 神義論
8. 神の国
9. 義認
10. 終末論
11. 聖餐
12. 聖霊
13. 宣教学（組織神学事典にはない）
14. 永遠の命
15. 学生の発題（卒論との関連において）
16. 学生の発題（卒論との関連において）
17. 学生の発題（卒論との関連において）
18. 学生の発題（卒論との関連において）
19. 学生の発題（卒論との関連において）
20. 学生の発題（卒論との関連において）

教科書

東京神学神学会編『新キリスト教組織神学事典』（教文館、2018）

参考書

アリスター・A・マクグラス『キリスト教神学資料集』（上下）古屋安雄監編（キリスト新聞社、2007）

備　考

実践神学ゼミ

教職参加ゼミ　担当講師　荒瀬牧彦

授業日・時間 金曜 20:30 ～ 22:00
4 月 7 日、4 月 14 日、4 月 21 日、4 月 28 日、5 月 12 日、5 月 19 日、5 月 26 日、6 月 2 日、6 月 9 日、6 月 16 日、6 月 23 日、6 月 30 日、7 月 7 日、7 月 14 日、9 月 15 日、9 月 22 日、9 月 29 日、10 月 6 日、10 月 13 日、10 月 20 日の 20 回

講義概要

３年次の「礼拝学」では扱いきれなかった事柄には、プロテスタント教会の二つのサクラメントである洗礼と聖餐、諸教派のサクラメント理解の比較、また牧会諸式（結婚式、葬儀、その他の諸式）といった課題がある。演習参加者の関心に合わせて取り上げるものを絞りたい。また、異なる礼拝伝統への理解を深めるためのフィールド・ワーク（礼拝参加）も可能であれば実施したい。

授業内容

（以下は 2019 年の実施例）

1. オリエンテーション
2. 洗礼とは何か１　カトリック
3. 洗礼とは何か２　ルター派・改革派
4. 洗礼の理解３　バプテスト
5. 聖餐とは何か１　カトリック
6. 聖餐とは何か２　ルター派・改革派
7. 聖餐とは何か３　バプテスト・ペンテコステ
8. 聖餐とは何か４　小児陪餐　聖公会・ルーテルでの取り組み
9. 聖餐とは何か５「開かれた食卓」という主張
10. 聖餐とは何か６　リマ式文・エキュメニカルな聖餐式文
11. サクラメントとは何か　カトリックとプロテスタントの相違
12. 結婚式を考える１
13. 結婚式を考える２
14. 結婚式の司式と説教
15. 葬儀を考える１
16. 葬儀を考える２
17. 葬儀の司式と説教１
18. 葬儀の司式と説教２
19. 葬儀前後の諸式
20. その他の牧会的諸儀式
21. まとめ

成績評価方法

授業への参加	50％
発表	50％

教科書

取り上げる課題が決定した時点で指示する。

参考書

取り上げる課題が決定した時点で指示する。

備　考

2023 年度　日本聖書神学校　教職者参加ゼミナール申し込み書

申込日：　　年　　月　　日

フリガナ

名　前　　（　　歳）

住　所

〒

Tel:

Fax:

携帯

E メール

教派・教会

出身神学校

希望聴講科目

※メールでの申込の場合、メール本文に各事項を記載していただいてもさしつかえありません。